

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2024年7月5日

【四半期会計期間】 第35期第2四半期(自 2024年3月1日 至 2024年5月31日)

【会社名】 テクノアルファ株式会社

【英訳名】 Techno Alpha Co., Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 稲垣 映磨

【本店の所在の場所】 東京都品川区西五反田二丁目27番4号  
明治安田生命五反田ビル

【電話番号】 (03)3492 - 7421(代表)

【事務連絡者氏名】 経営企画室長 前田 資之

【最寄りの連絡場所】 東京都品川区西五反田二丁目27番4号  
明治安田生命五反田ビル

【電話番号】 (03)5745 - 9722

【事務連絡者氏名】 経営企画室長 前田 資之

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第34期 第2四半期 連結累計期間	第35期 第2四半期 連結累計期間	第34期
会計期間	自 2022年12月1日 至 2023年5月31日	自 2023年12月1日 至 2024年5月31日	自 2022年12月1日 至 2023年11月30日
売上高 (千円)	2,359,585	1,952,702	4,369,659
経常利益 (千円)	187,819	130,518	238,294
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益 (千円)	123,110	89,079	166,217
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	127,614	95,403	167,548
純資産額 (千円)	1,762,355	1,835,786	1,802,231
総資産額 (千円)	2,885,905	2,651,191	2,973,888
1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	69.72	50.45	94.14
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	61.1	69.2	60.6
営業活動によるキャッシュ・フロー (千円)	440,005	25,370	79,868
投資活動によるキャッシュ・フロー (千円)	10,863	28,159	39,704
財務活動によるキャッシュ・フロー (千円)	153,561	61,123	46,042
現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高 (千円)	846,637	592,188	657,576

回次	第34期 第2四半期 連結会計期間	第35期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自 2023年3月1日 至 2023年5月31日	自 2024年3月1日 至 2024年5月31日
1株当たり四半期純利益 (円)	34.62	16.87

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
- 2 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

## 2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、経営者が連結会社の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に重要な影響を与える可能性があるとして認識している主要なリスクの発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

## 2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものです。

### (1) 財政状態及び経営成績の状況

当第2四半期連結累計期間においては、ロシア・ウクライナ情勢に加えガザ地区においても緊迫した状況が継続しており、今後の動向は依然として不透明です。また、引き続き、国内外の金利や為替の動向への注視が必要です。

このような状況のもと、当社グループは、主な課題である半導体テストソリューションの強化、船用機器販売の強化およびグループ技術力の連携強化に取り組んでおります。当第2四半期連結累計期間においては、円安の影響による輸入商材の利益率低下、半導体製造装置の設備投資ペースの減速傾向、S I事業における受注の減速などの懸念はあるものの、マリン・環境機器事業が好調に推移しております。

これらの結果、当第2四半期連結累計期間における売上高は1,952,702千円(前年同四半期比17.2%減)、営業利益は95,073千円(前年同四半期比41.4%減)、経常利益は130,518千円(前年同四半期比30.5%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益は89,079千円(前年同四半期比27.6%減)となりました。

セグメントごとの経営成績は次のとおりです。

#### エレクトロニクス事業

当事業においては、半導体テストソリューションの強化、S I事業との連携強化および当社製装置を含む製造ライン向け装置一式の一括提案・販売の強化に注力しております。当第2四半期連結累計期間においては、円安の影響により輸入商材の利益率が低下しておりますが、当社製装置を含む製造ライン向け装置一式の販売強化が順調に進んでおります。また、主力商材である半導体製造装置においては、設備投資ペースの減速はみられるものの、新たなアプリケーションの引き合いが増加傾向にあります。

これらの結果、売上高は1,204,051千円(前年同四半期比17.0%減)、営業利益は93,043千円(前年同四半期比12.3%減)となりました。

#### マリン・環境機器事業

当事業においては、巡視船および測量船向けのダビット等に加え、欧州メーカー製船用クレーン等の特殊甲板機器の販売強化に注力しております。これらの船用機器については、受注から検収までの期間が長く、当第2四半期連結累計期間においては、前連結会計年度以前に受注した船用機器を予定どおりに販売いたしました。

これらの結果、売上高は364,973千円(前年同四半期比49.7%増)、営業利益は122,842千円(前年同四半期比57.9%増)となりました。

#### S I事業

当事業においては、主要ビジネスである国内における試験・計測システムインテグレーションビジネスに注力するとともに、エレクトロニクス事業との連携強化に注力しております。当第2四半期連結累計期間においては、これらの取組みは進みつつあるものの、売上・受注ともに低調に推移しております。

これらの結果、売上高は337,277千円(前年同四半期比44.8%減)、営業損失は17,408千円(前年同四半期は、62,166千円の営業利益)となりました。

#### サイエンス事業

当事業においては、海外メーカー製理化学機器・ソフトウェアの販売強化に注力しております。当第2四半期連結累計期間においては、既存商材の販売と並行して新商材の開拓を進めてはいるものの、売上・利益ともに低調に推移しております。

これらの結果、売上高は46,400千円(前年同四半期比13.1%減)、営業損失は3,996千円(前年同四半期は、1,423千円の営業損失)となりました。

当第2四半期連結会計期間末における総資産は2,651,191千円(前連結会計年度末比322,696千円の減少)となりました。これは主に、仕掛品の増加27,206千円およびその他流動資産の増加143,194千円の方で電子記録債権の減少161,111千円および商品の減少188,257千円などによる流動資産の減少287,024千円、ならびに固定資産の減少35,672千円によるものです。

当第2四半期連結会計期間末における純資産は1,835,786千円(前連結会計年度末比33,555千円の増加)となりました。これは主に、配当金の支払いの方で親会社株主に帰属する四半期純利益を計上したことによる利益剰余金の増加27,231千円およびその他の包括利益累計額の増加6,324千円によるものです。

当第2四半期連結会計期間末における自己資本比率は、69.2%(前連結会計年度末比8.6ポイント増)となりました。

## (2) キャッシュ・フローの状況の分析

当第2四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物は、592,188千円(前年同四半期末比254,449千円の減少)となりました。

### 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動によるキャッシュ・フローは、25,370千円の収入(前年同四半期は、440,005千円の収入)となりました。これは、主な支出要因として、仕入債務の減少153,998千円、未払金の減少17,648千円、役員退職慰労引当金の減少48,556千円および未払消費税等の減少25,185千円があった一方で、主な収入要因として、税金等調整前四半期純利益130,756千円の計上、売上債権の減少211,734千円、減価償却費15,434千円および賞与引当金の増加10,797千円があったことによるものです。

### 投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動によるキャッシュ・フローは、28,159千円の支出(前年同四半期は、10,863千円の支出)となりました。これは主に、保険積立金の解約による収入42,233千円の方で、有形固定資産の取得による支出54,667千円および無形固定資産の取得による支出14,472千円によるものです。

### 財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動によるキャッシュ・フローは、61,123千円の支出(前年同四半期は、153,561千円の支出)となりました。これは主に、配当金の支払による支出60,689千円によるものです。

## 3 【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	8,000,000
計	8,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (2024年5月31日)	提出日現在 発行数(株) (2024年7月5日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	2,316,000	2,316,000	東京証券取引所 スタンダード市場	(注)1、2
計	2,316,000	2,316,000		

(注) 1 単元株式数は100株であります。

2 当社の発行済株式は、すべて株主としての権利に制限のない、標準となる株式であります。

##### (2) 【新株予約権等の状況】

###### 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

###### 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2024年3月1日 ~2024年5月31日		2,316,000		100,210		75,210

## (5) 【大株主の状況】

2024年5月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式 (自己株式を 除く。)の 総数に対する 所有株式数の 割合(%)
青島 勉	横浜市神奈川区	203,800	11.54
楠目 常男	神奈川県鎌倉市	100,100	5.67
塩崎 五月	大阪市天王寺区	46,500	2.63
中村 泰三	横浜市鶴見区	45,900	2.60
平 豊	群馬県高崎市	41,000	2.32
横田 重夫	愛知県豊橋市	41,000	2.32
株式会社SBI証券	東京都港区六本木一丁目6番1号	37,935	2.15
テクノアルファ取引先持株会	東京都品川区西五反田二丁目27番4号	34,200	1.94
楽天証券株式会社	東京都港区南青山二丁目6番21号	27,600	1.56
テクノアルファ株式会社社員持株会	東京都品川区西五反田二丁目27番4号	23,800	1.35
計	-	601,835	34.09



## (6) 【議決権の状況】

## 【発行済株式】

2024年5月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 550,300		
完全議決権株式(その他)	普通株式 1,760,200	17,602	
単元未満株式	普通株式 5,500		
発行済株式総数	2,316,000		
総株主の議決権		17,602	

(注) 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式50株が含まれております。

## 【自己株式等】

2024年5月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) テクノアルファ株式会社	東京都品川区西五反田二 丁目27番4号 明治安田生命五反田ビル	550,300	-	550,300	23.76
計	-	550,300	-	550,300	23.76

## 2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4 【経理の状況】

### 1 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」という。)に基づいて作成しております。

### 2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(2024年3月1日から2024年5月31日まで)及び第2四半期連結累計期間(2023年12月1日から2024年5月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、三優監査法人による四半期レビューを受けております。

## 1 【四半期連結財務諸表】

## (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年11月30日)	当第2四半期連結会計期間 (2024年5月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	657,576	592,188
受取手形、売掛金及び契約資産	616,356	573,630
電子記録債権	381,644	220,533
商品	558,281	370,023
仕掛品	123,481	150,687
その他	127,673	270,867
貸倒引当金	289	232
流動資産合計	2,464,724	2,177,699
固定資産		
有形固定資産	241,377	226,909
無形固定資産	29,781	43,052
投資その他の資産		
投資有価証券	100,000	100,000
繰延税金資産	64,934	40,503
その他	73,070	63,026
投資その他の資産合計	238,004	203,530
固定資産合計	509,164	473,491
資産合計	2,973,888	2,651,191

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年11月30日)	当第2四半期連結会計期間 (2024年5月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	350,113	196,114
短期借入金	300,000	300,000
未払法人税等	35,671	24,454
賞与引当金	-	10,797
その他	310,640	151,663
流動負債合計	996,425	683,029
固定負債		
リース債務	2,915	2,543
退職給付に係る負債	65,291	74,077
役員退職慰労引当金	92,758	44,202
繰延税金負債	8,324	7,543
資産除去債務	3,387	3,392
その他	2,553	616
固定負債合計	175,231	132,375
負債合計	1,171,656	815,405
純資産の部		
株主資本		
資本金	100,210	100,210
資本剰余金	121,646	121,646
利益剰余金	2,242,666	2,269,897
自己株式	657,488	657,488
株主資本合計	1,807,033	1,834,264
その他の包括利益累計額		
繰延ヘッジ損益	4,802	1,521
その他の包括利益累計額合計	4,802	1,521
純資産合計	1,802,231	1,835,786
負債純資産合計	2,973,888	2,651,191

## (2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年12月1日 至 2023年5月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年12月1日 至 2024年5月31日)
売上高	2,359,585	1,952,702
売上原価	1,746,374	1,393,101
売上総利益	613,210	559,600
販売費及び一般管理費	450,950	464,526
営業利益	162,260	95,073
営業外収益		
受取利息	804	1,222
為替差益	-	4,177
助成金収入	33,667	-
保険戻戻金	-	30,475
その他	378	491
営業外収益合計	34,850	36,368
営業外費用		
支払利息	63	923
為替差損	9,227	-
営業外費用合計	9,291	923
経常利益	187,819	130,518
特別利益		
固定資産売却益	-	238
特別利益合計	-	238
特別損失		
固定資産除却損	221	-
特別損失合計	221	-
税金等調整前四半期純利益	187,597	130,756
法人税、住民税及び事業税	75,008	20,819
法人税等調整額	10,521	20,858
法人税等合計	64,486	41,677
四半期純利益	123,110	89,079
親会社株主に帰属する四半期純利益	123,110	89,079

## 【四半期連結包括利益計算書】

## 【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年12月1日 至 2023年5月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年12月1日 至 2024年5月31日)
四半期純利益	123,110	89,079
その他の包括利益		
繰延ヘッジ損益	4,504	6,324
その他の包括利益合計	4,504	6,324
四半期包括利益	127,614	95,403
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	127,614	95,403
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

## (3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年12月1日 至 2023年5月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年12月1日 至 2024年5月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	187,597	130,756
減価償却費	12,628	15,434
貸倒引当金の増減額(は減少)	209	57
賞与引当金の増減額(は減少)	17,754	10,797
役員退職慰労引当金の増減額(は減少)	5,229	48,556
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	7,346	8,785
受取利息及び受取配当金	804	1,222
支払利息	63	923
為替差損益(は益)	9,227	1,475
助成金収入	33,203	-
保険返戻金	-	30,475
固定資産売却損益(は益)	-	238
固定資産除却損	221	-
売上債権の増減額(は増加)	213,321	211,734
棚卸資産の増減額(は増加)	12,512	161,040
前渡金の増減額(は増加)	665	155,750
仕入債務の増減額(は減少)	48,644	153,998
未払金の増減額(は減少)	15,473	17,648
未払消費税等の増減額(は減少)	50,589	25,185
その他	28,152	57,273
小計	468,593	50,540
利息及び配当金の受取額	1,205	1,209
利息の支払額	55	961
法人税等の支払額	62,941	25,417
助成金の受取額	33,203	-
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>440,005</b>	<b>25,370</b>
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	9,401	54,667
有形固定資産の売却による収入	-	470
無形固定資産の取得による支出	-	14,472
保険積立金の積立による支出	1,875	1,746
保険積立金の解約による収入	30	42,233
貸付けによる支出	-	350
貸付金の回収による収入	383	374
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>10,863</b>	<b>28,159</b>
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額(は減少)	100,000	-
配当金の支払額	52,966	60,689
リース債務の返済による支出	595	434
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>153,561</b>	<b>61,123</b>
現金及び現金同等物に係る換算差額	2,842	1,475
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	272,738	65,388
現金及び現金同等物の期首残高	573,899	657,576
現金及び現金同等物の四半期末残高	846,637	592,188

【注記事項】



## (四半期連結貸借対照表関係)

## 当座貸越契約

	前連結会計年度 (2023年11月30日)	当第2四半期連結会計期間 (2024年5月31日)
当座貸越極度額	1,100,000千円	1,100,000千円
借入実行残高	300,000千円	300,000千円
差引額	800,000千円	800,000千円

## (四半期連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりです。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年12月1日 至 2023年5月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年12月1日 至 2024年5月31日)
給与手当	137,856千円	144,378千円
役員報酬	40,984千円	35,090千円
賞与	19,312千円	21,952千円
賞与引当金繰入額	6,286千円	4,373千円
役員退職慰労引当金繰入額	5,229千円	5,393千円
退職給付費用	9,971千円	11,172千円

## (四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりです。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年12月1日 至 2023年5月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年12月1日 至 2024年5月31日)
現金及び預金	846,637千円	592,188千円
現金及び現金同等物	846,637千円	592,188千円

## (株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 2022年12月1日 至 2023年5月31日)

## 1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2023年2月27日 開催定時株主総会	普通株式	52,973	30.00	2022年11月30日	2023年2月28日	利益剰余金

2 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日  
後となるもの

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 2023年12月1日 至 2024年5月31日)

## 1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2024年2月28日 開催定時株主総会	普通株式	61,797	35.00	2023年11月30日	2024年2月29日	利益剰余金

2 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日  
後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 2022年12月1日 至 2023年5月31日)

## 1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

	報告セグメント				合計
	エレクトロニクス事業	マリン・環境機器事業	SI事業	サイエンス事業	
売上高					
顧客との契約から生じる収益	1,451,037	243,794	611,341	53,411	2,359,585
外部顧客への売上高	1,451,037	243,794	611,341	53,411	2,359,585
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	-	5,252	-	5,252
計	1,451,037	243,794	616,593	53,411	2,364,837
セグメント利益又は損失( )	106,105	77,819	62,166	1,423	244,666

## 2 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	244,666
全社費用(注)	82,406
四半期連結損益計算書の営業利益	162,260

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費です。

3 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報  
該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 2023年12月1日 至 2024年5月31日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

	報告セグメント				合計
	エレクトロニクス事業	マリン・環境機器事業	S I 事業	サイエンス事業	
売上高					
顧客との契約から生じる収益	1,204,051	364,973	337,277	46,400	1,952,702
外部顧客への売上高	1,204,051	364,973	337,277	46,400	1,952,702
セグメント間の内部売上高又は振替高	480	-	3,728	-	4,208
計	1,204,531	364,973	341,006	46,400	1,956,911
セグメント利益又は損失( )	93,043	122,842	17,408	3,996	194,480

2 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	194,480
全社費用(注)	99,406
四半期連結損益計算書の営業利益	95,073

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費です。

3 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報  
該当事項はありません。

4 報告セグメントの変更等に関する事項

当社グループは、第1四半期連結会計期間の期首より、経営実態に照らした見直しを行い、各報告セグメントに対して配分する費用及び全社費用の変更を行っております。

なお、前第2四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の算定方法に基づき作成したものを記載しております。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、「注記事項(セグメント情報等)」に記載のとおりです。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年12月1日 至 2023年5月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年12月1日 至 2024年5月31日)
1株当たり四半期純利益	69円72銭	50円45銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益(千円)	123,110	89,079
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益(千円)	123,110	89,079
普通株式の期中平均株式数(株)	1,765,785	1,765,650

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

2024年7月5日

テクノアルファ株式会社  
取締役会 御中

三優監査法人  
東京事務所

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 山本公太

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 森田 聡

### 監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているテクノアルファ株式会社の2023年12月1日から2024年11月30日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（2024年3月1日から2024年5月31日まで）及び第2四半期連結累計期間（2023年12月1日から2024年5月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、テクノアルファ株式会社及び連結子会社の2024年5月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

### 監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

### 四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して

実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

#### 利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 
- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。  
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。